インタビューの動機　　　2月12日宮下　真悠子

遠藤さほ先輩

文化発表会や紫蝶祭りの劇のエンドロールで劇の監督がさほ先輩となっているのを何回か見たから劇がすきなのかなと思ったから。私は大して劇への興味もないためもし劇のことが好きならいろいろ話を聞いてみたいと思った。また、劇の監督をするということは役者の動きをよく観察して改善すべきアドバイスをするということをするのが上手なのかなと思ったから。私は劇への興味や観察力があるならそのようなことを重点的に知りたいと思った。

望月麻衣先輩

私が入学してから始めて先輩とかかわったのは紫蝶祭のダンス練習のとき。私と先輩が踊るダンスがたまたま一緒で踊り方について教わった。先輩はとてもわかりやすく丁寧に教えてくれて私はリラックスし、ダンスを覚えることができた。また、今年は生徒会の一員として活躍し、その高い行動力でこうりょうの生徒を引っ張っていってくれたと思う。私の中で一番最初に浮かぶ先輩で、また私が知っている限りの先輩の理想像なのだ。そんな先輩のほかの一面を知ってみたいと思ったので、今回インタビューすることにした。